

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 5
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587034101	科目番号 / Subject code	05870341
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	コミュニケーション基礎講座 (異文化コミュニケーション)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	大橋 絵理		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	大橋 絵理		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	大橋 絵理, 奥田 阿子		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	eohashi@nagasaki-u.ac.jp, a-okuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員TEL/Tel	095-819-2086 (大橋)、095-819-2380 (奥田)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日 15:00-16:00 (大橋, 奥田)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	2010年に日本での国際結婚は4.3%以上となっており、この数字は世界のグローバル化に伴い、さらに増加すると推測されている。したがって、「国際結婚について考える」という学習内容は、学生の将来のみならず、日本社会全体にとっても避けては通れない検討課題であると思われる。この授業では、国際結婚という問題を通して、各国の社会、文化、宗教、政治、法律の相違という他者的な視点を考察し、自己の理解を相対化することをねらいとする。		
授業到達目標/Goal	アクティブラーニングを取り入れた授業方法を取り、以下の4点を到達目標とする。 1) 学生自身が、自主的に学習目標を立ち上げ探究する力をつける。 2) 適切な学習計画を実行し、仲間と議論、熟考すること通し多様性を理解する能力を身につける。 3) 学習成果を相互的に評価し、相互啓発志向を高めることを目標とする。 4) 以上の3点を通して相互の信頼、尊敬及び扶助、表現の自由、他者の意見の受容を獲得する。		
授業方法(学習指導法)/Method	この授業では、講義、グループ活動、発表を通して国際結婚についての知識を深めていく。初めの数回は、講義形式の授業を数回取り入れ、この授業における前提の知識を得る。その後は、1グループ5名ほどのチームに分かれ発表に向けた調査を行う。調査では、インターネットや外国人に英語でインタビューなどして情報収集をし、チーム内で議論をしながら発表準備を行う。発表では、調査結果を報告するだけでなく、他のグループを評価しながら、新たな知識を身につけていく。		
授業内容/Class outline/Con	この授業は国際結婚について、知識を深めます。 また、アクティブラーニングを導入し、主体的に学ぶ姿勢を育成します。		
キーワード/Key word	異文化、他者、国際理解、共生思想		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	特定の教科書は採用しない。 <参考書> 1) 小栗 左多里、『ダーリンは外国人』、メディアファクトリー、2002年 2) 河原 俊昭ほか、『国際結婚 多言語化する家族とアイデンティティ』、明石書店、2009年 3) 田代純子、『国際結婚・離婚ハンドブック』、明石書店、2011年 4) 竹下修子、『国際結婚の諸相』、学文社、2004年 5) 榎本 行雄ほか、『国際結婚実務ガイド』、明石書店、2012年		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業態度(積極的発言等) 20% プレゼンテーション 40% レポート 40%		
受講要件(履修条件)/Requirements	各人が 1) プレゼンテーションの資料を作る 2) プレゼンテーションをする 3) ディベートに参加する 4) レポートを書く 5) 授業外学習に週平均2時間程度を充てること、参考資料をきちんと読むこと。		

学生へのメッセージ/Message for students	授業外学習の具体的な活動例： プレゼンテーションの資料を作る。 ディベートの準備をする。
授業計画詳細	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	授業の概要の説明 1) 国際結婚をテーマとしたアクティブラーニングを授業で実施することを説明する。 2) 「日本の結婚制度の成立」、「欧米の基督教社会の結婚」、「中東、アフリカのイスラム教社会の結婚」、「アジア各国の結婚(韓国、中国、東南アジア)」の歴史と現状についてバランスよく情報を提供する。
第2回	テーマとゴールを設定 1) 「全体のテーマ」国際社会と結婚について考察する。 2) 「全体のゴール」グローバル化する国際社会への対応法 3) 関心がある者どうしでのチーム作り(1チーム5人)
第3回	計画 1) 各チームで具体的に何をテーマにすべきかを考え、役割分担、各自の仕事を確認する。2) 具体的な「工程表」「企画書」を作成する。
第4回	映画鑑賞 1) 「ダーリンは外国人」の映画を見る。 2) 感想を議論する。
第5回	インタビュー 1) 外国人に授業に来てもらって、英語でその国の結婚制度について説明してもらう。 2) その後学生達も英語で質問して、答えてもらう。
第6回	情報リサーチ(1) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
第7回	情報リサーチ(2) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
第8回	情報リサーチ(3) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
第9回	製作(1) 1) パワーポイントあるいはロイロノートでスライド作成。
第10回	製作(2) 1) パワーポイントあるいはロイロノートでスライド作成。 [特別講師：野田 康文]
第11回	プレゼンテーション(1) 1) 各回で4チームずつ、プレゼンテーションをして質疑応答をする。 2) それらを学生相互で採点する。
第12回	プレゼンテーション(2) 1) 各回で4チームずつ、プレゼンテーションをして質疑応答する。 2) それらを学生相互で採点する。
第13回	プレゼンテーション(3) 1) 各回で4チームずつ、プレゼンテーションをして質疑応答する。 2) それらを学生相互で採点する。
第14回	ディベート(1) 最高得点だったチームの議題について、賛成派、反対派、ジャッジグループを作って討論する。
第15回	ディベート(2) 最高得点だったチームの議題について、賛成派、反対派、ジャッジグループを作って討論する。
第16回	レポート レポートを書く。

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 4
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/01/14		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587044101	科目番号 / Subject code	05870441
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	コミュニケーション基礎講座 (メディア・コミュニケーション)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	深尾 典男		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	深尾 典男		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	深尾 典男		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
対象学生 (クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	fukao@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	広報戦略本部 (事務局棟 2F)		
担当教員TEL / Tel	819-2008		
担当教員オフィスアワー / Office hours	9:30 - 17:30		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>社会人に求められる素養の一つに情報を収集し、分析する力があります。みなさんは日常生活のなかで、新聞やテレビ、雑誌、インターネットなどのメディアを通じてさまざまな情報に接していますが、このなかから、自分にとって必要な情報を収集し分析することは社会参画への重要な第一歩となります。一方、日々接する情報のなかには、気づかないうちに、みなさんの意識に大きな変化をもたらしているものもあります。個々のメディアの長所や短所を理解し、自らの社会生活に生かすことが、みなさんにとって重要です。そこで本科目では、近年、注目されたテーマを題材に、各メディアがどのような特性を持つかを分析し、具体的なメディアの活用方法について議論、検討します。また、メディアの表現手法を学ぶことで、自身の表現能力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。</p>		
授業到達目標 / Goal	<p>社会の動きに関心を持ち、自ら情報を獲得する生活態度を身につける (、 、 、 、) 報道される情報を的確に理解し、バランスよく判断できる (、 、 、) 自ら集めた情報をもとに考えをまとめ、他者と議論することができる (、 、 、 、 、 、) メディアの表現方法を学び、自らの表現に生かすことができる (、 、 、 、)</p>		
授業方法 (学習指導法) / Method	<p>社会的に注目されたテーマを題材に、グループワークやグループプレゼンテーションを実施します。学習者同士で討議することにより、メディアに対する接し方を深めることができると同時に、流通する情報に対して多面的な見方ができる力を涵養します。特に、一つのテーマに絞り、新聞記事の論調の比較などを実施し、同一事象に対しても、多様な論調があることを理解するきっかけとします。また、取材者の視点や行動を理解するため、課題を課し、情報収集と記事の執筆を求めます。プレゼンテーションの実施と授業後のレポートを求めます。期末試験は実施しません。</p>		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	表現手法、権力、ジャーナリズム、ポストモダニズム、ネット活用、メディアリテラシー		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は用いません。必要な資料等は授業時に配布しますが、日常的に複数の新聞に接するようにしてください。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	出席状況、授業外課題とグループ・プレゼンテーション、レポート提出 (2000字程度) を総合的に判断します。		
受講要件 (履修条件) / Requirements	全回出席ができること。与えられた課題に対して事前事後の学習時間を確保できること。		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	日常的にメディアに接することがメディアリテラシーを高める近道です。図書館等を利用して、短時間でもいいので、毎日情報に接するようにしてください。		
授業計画詳細			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	導入		
第2回	メディアの特徴1 (新聞・出版 / 活字媒体)		
第3回	メディアの特徴2 (テレビ・ラジオ / 電波媒体)		
第4回	メディアの特徴3 (インターネット / ネット媒体)		
第5回	メディアの状況1 (マスメディアグループ)		
第6回	メディアの状況2 (インターネット系企業)		

第7回	メディアの手法を学ぶ1（発信する情報の収集）
第8回	メディアの手法を学ぶ2（発信する情報のまとめ方）
第9回	報道内容を分析する1（新聞の論調比較1）
第10回	報道内容を分析する2（新聞の論調比較2）
第11回	報道内容を分析する3（新聞の論調比較3）
第12回	報道内容を分析する4（新聞の論調比較4）
第13回	記者の立場で考える1（ニュースをつくる1）
第14回	記者の立場で考える2（ニュースをつくる2）
第15回	まとめ／メディアとの接し方を考える
第16回	

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587044301	科目番号 / Subject code	05870443
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	コミュニケーション基礎講座 (集団内コミュニケーション)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	川越 明日香		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	川越 明日香		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	川越 明日香		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会、教育、経済、薬、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kawagoe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部新館2階 (254-1)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2773		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールで相談のこと		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	自身の対人世界のありようと対人関係スタイルの成り立ちを吟味し、共に生きる関係構築の方法を 実生活の中で模索することをねらいとしています。 また、将来、国際社会のリーダーとなるために、自らの成長につながる「気づき」を得ると共に、 リーダーシップに必須のコミュニケーションの基礎を学びます。		
授業到達目標/Goal	(カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号) ・自分の対人関係スタイルを分析することができる。(、 、) ・関心をもった内容について、グループプレゼンテーションを適切に行うことができる。(、 、) ・リーダーシップ理論の変遷を記述することができる。(、) ・コミュニケーションのもつ機能について説明することができる。(、) ・ディベートを通して、コミュニケーション力を向上させることができる。(、 、 、) ・対人世界における自分の行動課題を適切にまとめることができる。(、 、)		
授業方法 (学習指導法) /Method	様々な対人関係のあり方を学びながら、リーダーシップやコミュニケーションについて学習します。 講義と演習 (グループ活動、プレゼンテーション、ディベート等) を随時取り入れていきます。 そのため、それぞれの作業に必要な内容を事前に準備することを必須とし、授業外課題として成績 評価の対象にします。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	セルフコーチング、対人関係、リーダーシップ、コミュニケーション		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は指定しません。使用する教材は、その都度お知らせします。 参考資料： 人間関係の心理学 高橋恵子 東京大学出版会 2010年 コミュニケーションと対人関係 相川充・高井次郎編著 誠信書房 2010年 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら 岩崎夏海 ダイア モンド社 2009年		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業外課題 (2点×15回) + 授業内活動 (30点) + 試験 (40点) = 100点のうち、60点以上を合格と します。		
受講要件 (履修条件) /Requirements	授業外学習に週平均2時間程度を充てること。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション		
第2回	セルフコーチング、自己紹介プレゼン		
第3回	自己紹介プレゼン、まとめと振り返り		
第4回	様々な対人関係		
第5回	グループ活動		
第6回	集団のなかのわたし (プレゼンテーション)		
第7回	まとめと振り返り		
第8回	リーダーシップ理論の変遷		

第9回	グループ活動
第10回	良いリーダーシップ (プレゼンテーション)
第11回	まとめと振り返り
第12回	リーダーシップとコミュニケーション
第13回	グループ活動
第14回	リーダーに必要なコミュニケーション (ディベート)
第15回	まとめと振り返り
第16回	

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	他/Oth. 0
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587044302	科目番号 / Subject code	05870443
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	コミュニケーション基礎講座 (集団内コミュニケーション)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	川越 明日香		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	川越 明日香		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	川越 明日香		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room			
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会、教育、経済、薬、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kawagoe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部新館2階 (254-1)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2773		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールで相談のこと		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	自身の対人世界のありようと対人関係スタイルの成り立ちを吟味し、共に生きる関係構築の方法を 実生活の中で模索することをねらいとしています。 また、将来、国際社会のリーダーとなるために、自らの成長につながる「気づき」を得ると共に、 リーダーシップに必須のコミュニケーションの基礎を学びます。		
授業到達目標/Goal	(カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号) ・自分の対人関係スタイルを分析することができる。(、 、) ・関心をもった内容について、グループプレゼンテーションを適切に行うことができる。(、 、) ・リーダーシップ理論の変遷を記述することができる。(、) ・コミュニケーションのもつ機能について説明することができる。(、) ・ディベートを通して、コミュニケーション力を向上させることができる。(、 、 、) ・対人世界における自分の行動課題を適切にまとめることができる。(、 、)		
授業方法 (学習指導法) /Method	様々な対人関係のあり方を学びながら、リーダーシップやコミュニケーションについて学習します。 講義と演習 (グループ活動、プレゼンテーション、ディベート等) を随時取り入れていきます。 そのため、それぞれの作業に必要な内容を事前に準備することを必須とし、授業外課題として成績 評価の対象にします。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	セルフコーチング、対人関係、リーダーシップ、コミュニケーション		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は指定しません。使用する教材は、その都度お知らせします。 参考資料： 人間関係の心理学 高橋恵子 東京大学出版会 2010年 コミュニケーションと対人関係 相川充・高井次郎編著 誠信書房 2010年 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら 岩崎夏海 ダイア モンド社 2009年		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業外課題 (2点×15回) + 授業内活動 (30点) + 試験 (40点) = 100点のうち、60点以上を合格と します。		
受講要件 (履修条件) /Requirements	授業外学習に週平均2時間程度を充てること。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション		
第2回	セルフコーチング、自己紹介プレゼン		
第3回	自己紹介プレゼン、まとめと振り返り		
第4回	様々な対人関係		
第5回	グループ活動		
第6回	集団のなかのわたし (プレゼンテーション)		
第7回	まとめと振り返り		
第8回	リーダーシップ理論の変遷		

第9回	グループ活動
第10回	良いリーダーシップ(プレゼンテーション)
第11回	まとめと振り返り
第12回	リーダーシップとコミュニケーション
第13回	グループ活動
第14回	リーダーに必要なコミュニケーション(ディベート)
第15回	まとめと振り返り
第16回	

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587044501	科目番号 / Subject code	05870445
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	コミュニケーション基礎講座 (身体体験に学ぶ心理学)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山地 弘起		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	山地 弘起		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	山地 弘起		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟11		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hyamaji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部新棟4階		
担当教員TEL/Tel	内線2087		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールにて相談のこと		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>普段のコミュニケーションでは、言葉の内容に注意が向きがちです。しかし実際には、顔の表情や声、ジェスチャーや姿勢などで伝わっているものが多く、しかも身体はその高度な調整機能によって「空気」を読み、状況に対応して、意図的・非意図的なさまざまな動きを同時展開しています。</p> <p>ところが、一定の発達過程を経て固定化した行動パターンでは、こうした身体の知恵や潜在力を必ずしも十分に発揮できません。本来の自然体の動きを、ルーチン化した習慣や思い込みによって枠付けし阻害していることがむしろ一般的です。我々が今後、ますます複雑化する人間関係を生き抜いていくためには、なじんだ心身習慣を越えて、個々の状況でより柔軟かつ現実的に対応できる力が求められるのです。</p> <p>そこで本科目では、身体体験を通して生き物としての自分のありようを確かめ、自分との関わり方・世界との関わり方を再学習(脱学習)して感受性や表現力を高めることによって、より自由で手応えの感じられるコミュニケーションをめざします。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>(カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体にいていねいに意識を向けることで、さまざまな感覚や感情の推移を体験する。(、) ・ 自分との関わり方が変わること、体験や行動も変わることに気づく。(、、) ・ 身体次元の体験が言葉となってくるプロセスを体験する。() ・ 他者との関わりでより機能的な自己表現ができる。(、、) ・ 身体心理学の基礎的な考え方を説明することができる。() ・ 自分の体験傾向と成長課題を適切にまとめることができる。(、、) 		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>身体心理学の基礎的な考え方を紹介しながら、授業は体験学習を中心に進めます。十分な実習時間を確保するため、2コマ連続(木3・4限)の授業とし、8週間で終了します。30人程度のクラスで行いますので、受講希望者が多い場合には、前半の8週間と後半の8週間の2クラスに分けて実施します。その際、学部や男女比などが偏らないように分けますので、事前に前半・後半の希望を受けることはできません。</p> <p>本科目では授業外課題(毎週の予習課題と毎日の復習課題)があり、これを継続していくことが最も重要な学習となります。最後に総括のための確認テストとレポート課題があります。期末試験は実施しません。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>第1回において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明します。その後、身体心理学の基礎的な解説を含めながら徐々に体験学習を深めていきます。まず、第2回~第5回では身体体験にいていねいに焦点を当てます。続いて、第6回~9回ではフォーカシングとよばれる自己内対話の技法を中心に学習を進め、その後第10回~第13回で他者との関わりをテーマにした体験学習を行います。最後に、第14回~第16回で全体の復習と総括を行います。</p>		
キーワード/Key word	身体心理学、非言語行動、アウェアネス、フォーカシング、脱学習		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>教科書は指定しません。主な参考書は以下の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹内敏晴 「『出会う』ということ」 藤原書店 2009年 ・ 池見陽 「心のメッセージを聴く：実感が語る心理学」 講談社現代新書 1995年 ・ 平木典子 「アサーション入門：自分も相手も大切に自己表現法」 講談社現代新書 2012年 		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	全回出席を前提にします。(授業ワークシート4点+授業外課題6点)×7回+確認テスト10点+レポート20点=100点のうち、60点以上を合格とします。		

受講要件（履修条件）/Requirements	全回出席が可能なこと、授業外学習に週平均3時間程度を充てること、授業では集中して参加することを受講要件とします。 体験学習の成果は各自の集中の度合いにかかっていますし、集中の深い受講者が集中の浅い受講者に傷つけられることも起こり得ますので、最後の点には特に留意して下さい。
学生へのメッセージ/Message for students	いろいろな姿勢や動きをしても気にならない服装で参加して下さい（身体を締め付ける服装やスカート等は避けて下さい）。 なお、本科目は授業の内容と方法に新たな試みを含んでおり、授業の成果を検討するために事前・事後・フォローアップ時の各調査への協力をお願いします。但し、調査に協力するかどうかはその都度各自で選択できます。
授業計画詳細	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	導入：身体体験に焦点を当てる意義
第2回	身体とのかかわり： 重さと動き
第3回	”
第4回	身体とのかかわり： 呼吸と動き
第5回	”
第6回	自分とのかかわり： フェルト・センス
第7回	”
第8回	自分とのかかわり： フォーカシング
第9回	”
第10回	他者とのかかわり： ふれるということ
第11回	”
第12回	他者とのかかわり： 声と言葉
第13回	”
第14回	まとめ： 確認テストとレポート準備
第15回	”
第16回	まとめ： フォローアップ

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 4
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587044502	科目番号 / Subject code	05870445
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	コミュニケーション基礎講座 (身体体験に学ぶ心理学)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山地 弘起		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	山地 弘起		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	山地 弘起		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟11		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hyamaji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部新棟4階		
担当教員TEL/Tel	内線2087		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールにて相談のこと		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>普段のコミュニケーションでは、言葉の内容に注意が向きがちです。しかし実際には、顔の表情や声、ジェスチャーや姿勢などで伝わっているものが多く、しかも身体はその高度な調整機能によって「空気」を読み、状況に対応して、意図的・非意図的なさまざまな動きを同時展開しています。</p> <p>ところが、一定の発達過程を経て固定化した行動パターンでは、こうした身体の知恵や潜在力を必ずしも十分に発揮できません。本来の自然体の動きを、ルーチン化した習慣や思い込みによって枠付けし阻害していることがむしろ一般的です。我々が今後、ますます複雑化する人間関係を生き抜いていくためには、なじんだ心身習慣を越えて、個々の状況でより柔軟かつ現実的に対応できる力が求められるのです。</p> <p>そこで本科目では、身体体験を通して生き物としての自分のありようを確かめ、自分との関わり方・世界との関わり方を再学習(脱学習)して感受性や表現力を高めることによって、より自由で手応えの感じられるコミュニケーションをめざします。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>(カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体にいていねいに意識を向けることで、さまざまな感覚や感情の推移を体験する。(、) ・ 自分との関わり方が変わること、体験や行動も変わることに気づく。(、、) ・ 身体次元の体験が言葉となってくるプロセスを体験する。() ・ 他者との関わりでより機能的な自己表現ができる。(、、) ・ 身体心理学の基礎的な考え方を説明することができる。() ・ 自分の体験傾向と成長課題を適切にまとめることができる。(、、) 		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>身体心理学の基礎的な考え方を紹介しながら、授業は体験学習を中心に進めます。十分な実習時間を確保するため、2コマ連続(木3・4限)の授業とし、8週間で終了します。30人程度のクラスで行いますので、受講希望者が多い場合には、前半の8週間と後半の8週間の2クラスに分けて実施します。その際、学部や男女比などが偏らないように分けますので、事前に前半・後半の希望を受けることはできません。</p> <p>本科目では授業外課題(毎週の予習課題と毎日の復習課題)があり、これを継続していくことが最も重要な学習となります。最後に総括のための確認テストとレポート課題があります。期末試験は実施しません。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>第1回において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明します。その後、身体心理学の基礎的な解説を含めながら徐々に体験学習を深めていきます。まず、第2回~第5回では身体体験にいていねいに焦点を当てます。続いて、第6回~9回ではフォーカシングとよばれる自己内対話の技法を中心に学習を進め、その後第10回~第13回で他者との関わりをテーマにした体験学習を行います。最後に、第14回~第16回で全体の復習と総括を行います。</p>		
キーワード/Key word	身体心理学、非言語行動、アウェアネス、フォーカシング、脱学習		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>教科書は指定しません。主な参考書は以下の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹内敏晴 「『出会う』ということ」 藤原書店 2009年 ・ 池見陽 「心のメッセージを聴く：実感が語る心理学」 講談社現代新書 1995年 ・ 平木典子 「アサーション入門：自分も相手も大切に自己表現法」 講談社現代新書 2012年 		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	全回出席を前提にします。(授業ワークシート4点+授業外課題6点)×7回+確認テスト10点+レポート20点=100点のうち、60点以上を合格とします。		

受講要件（履修条件）/Requirements	全回出席が可能なこと、授業外学習に週平均3時間程度を充てること、授業では集中して参加することを受講要件とします。 体験学習の成果は各自の集中の度合いにかかっていますし、集中の深い受講者が集中の浅い受講者に傷つけられることも起こり得ますので、最後の点には特に留意して下さい。
学生へのメッセージ/Message for students	いろいろな姿勢や動きをしても気にならない服装で参加して下さい（身体を締め付ける服装やスカート等は避けて下さい）。 なお、本科目は授業の内容と方法に新たな試みを含んでおり、授業の成果を検討するために事前・事後・フォローアップ時の各調査への協力をお願いします。但し、調査に協力するかどうかはその都度各自で選択できます。
授業計画詳細	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	導入：身体体験に焦点を当てる意義
第2回	身体とのかかわり： 重さと動き
第3回	”
第4回	身体とのかかわり： 呼吸と動き
第5回	”
第6回	自分とのかかわり： フェルト・センス
第7回	”
第8回	自分とのかかわり： フォーカシング
第9回	”
第10回	他者とのかかわり： ふれるということ
第11回	”
第12回	他者とのかかわり： 声と言葉
第13回	”
第14回	まとめ： 確認テストとレポート準備
第15回	”
第16回	まとめ： フォローアップ

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587044701	科目番号 / Subject code	05870447
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	コミュニケーション基礎講座 (音楽・スポーツにおけるコミュニケーション)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	西田 治		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	西田 治		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	西田 治, 小原 達朗		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	学生プラザ1F 多目的室1		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	osamu-n@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部本館 5 1 6		
担当教員オフィスアワー / Office hours	昼休み(事前にメールにてアポイントを取ること)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>芸術やスポーツ(身体活動)は、そのパフォーマンスをパフォーマー自身が演じる中で自己完結するものである。しかし、他者とのかかわりにおいて見聞きする対象になり、相互の感性や意志のやり取りが生まれコミュニケーションが成り立つ。</p> <p>本授業では、音を媒介としたコミュニケーションや身体を媒介としたコミュニケーションの実際について実現象や実践を通して体験し、実生活の中で活用できるようになることをねらいとしている。</p>		
授業到達目標 / Goal	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の精神性及び身体性の特性を理解し、自己を表現する際に生かすことができる()。 ・言語的表現を非言語的な表現にイメージし、具体的に行動化できる()。 ・芸術やスポーツに内在するコミュニケーションの多様な形について理解し、説明できる()。 ・音や身体を使って思いや意志を相手に伝えることができ、生活場面へ汎化させることができる()。 		
授業方法(学習指導法) / Method	<p>本授業は、芸術とコミュニケーション(前半)とスポーツとコミュニケーション(後半)に分けて実施する。</p> <p>芸術とコミュニケーションにおいては、音によるコミュニケーションの可能性について理解し、その一端を経験することを目的とする。音楽療法の講義では、言語でのやり取りではなく、音あるいは音楽でコミュニケーションするということについて知的な理解を得ることを目的とし、ジャンベなどのハンドドラムと小物打楽器による即興演奏であるドラムサークルの講義では、実際に音でコミュニケーションをとる体験をし、それをディスカッションによって深めていく活動を行う。</p> <p>スポーツとコミュニケーションにおいては、人のからだの持つ表現性、しぐさの持つメッセージ、意図的なサインによる会話、スポーツ場面での様々な情報伝達などについて実践しながらコミュニケーション能力を身につける。</p>		
授業内容 / Class outline / Con	<ol style="list-style-type: none"> 1 心はどこにある?...ひとのからだの表現性 2 真似る細胞(ミラーニューロン)...ひとの脳の表現性 3 しぐさに込められた謎 4 サインに込められた意図 5 スポーツの中のコミュニケーション(その1) 6 スポーツの中のコミュニケーション(その2) 7 サインプレーの実践 8 授業の意図と概要 9 ドラムサークル1音あそび(アイスブレイク) 10 ドラムサークル2 11 ドラムサークル3 12 ドラムサークル4 13 グループ音楽活動の意義 14 ドラムサークル5 15 ドラムサークル6 16 総括 		

キーワード/Key word	コミュニケーション 音楽 身体 スポーツ
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>参考文献</p> <p>『音楽療法士のしごと』 生野 里花 (著) 単行本: 255ページ 出版社: 春秋社 (1998/01)</p> <p>『音楽文化のすすめ いま、ここにある音楽を理解するために』 小西 潤子 (編集), 志村 哲 (編集), 仲 万美子 (編集) 単行本: 264ページ 出版社: ナカニシヤ出版 (2007/03)</p> <p>『スポーツコミュニケーション』 東海林祐子 (著) 単行本: 187ページ 出版社: ブックハウス・エイチディ (2011/06)</p> <p>『身ぶりとしぐさの人類学』(中公新書) 野村雅一 (著) 単行本: 225ページ 中央公論社 (2002/05)</p>
成績評価の方法・基準等/Evaluation	レポートなどの提出物 70パーセント 講義時のワークシート 30パーセント

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 5
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587044702	科目番号 / Subject code	05870447
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	コミュニケーション基礎講座 (音楽・スポーツにおけるコミュニケーション)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	西田 治		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	西田 治		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	西田 治, 小原 達朗		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	学生プラザ1F 多目的室1		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	osamu-n@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部本館 5 1 6		
担当教員オフィスアワー / Office hours	昼休み (事前にメールにてアポイントを取ること)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>芸術やスポーツ (身体活動) は、そのパフォーマンスをパフォーマー自身が演じる中で自己完結するものである。しかし、他者とのかかわりにおいて見聞きする対象になり、相互の感性や意志のやり取りが生まれコミュニケーションが成り立つ。</p> <p>本授業では、音を媒介としたコミュニケーションや身体を媒介としたコミュニケーションの実際について実現象や実践を通して体験し、実生活の中で活用できるようになることをねらいとしている。</p>		
授業到達目標 / Goal	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の精神性及び身体性の特性を理解し、自己を表現する際に生かすことができる ()。 ・言語的表現を非言語的な表現にイメージし、具体的に行動化できる ()。 ・芸術やスポーツに内在するコミュニケーションの多様な形について理解し、説明できる ()。 ・音や身体を使って思いや意志を相手に伝えることができ、生活場面へ汎化させることができる ()。 		
授業方法 (学習指導法) / Method	<p>本授業は、芸術とコミュニケーション (前半) とスポーツとコミュニケーション (後半) に分けて実施する。</p> <p>芸術とコミュニケーションにおいては、音によるコミュニケーションの可能性について理解し、その一端を経験することを目的とする。音楽療法の講義では、言語でのやり取りではなく、音あるいは音楽でコミュニケーションするということについて知的な理解を得ることを目的とし、ジャンベなどのハンドドラムと小物打楽器による即興演奏であるドラムサークルの講義では、実際に音でコミュニケーションをとる体験をし、それをディスカッションによって深めていく活動を行う。</p> <p>スポーツとコミュニケーションにおいては、人のからだの持つ表現性、しぐさの持つメッセージ、意図的なサインによる会話、スポーツ場面での様々な情報伝達などについて実践しながらコミュニケーション能力を身につける。</p>		
授業内容 / Class outline / Con	<ol style="list-style-type: none"> 1 心はどこにある?...ひとのからだの表現性 2 真似る細胞 (ミラーニューロン) ...ひとの脳の表現性 3 しぐさに込められた謎 4 サインに込められた意図 5 スポーツの中のコミュニケーション (その1) 6 スポーツの中のコミュニケーション (その2) 7 サインプレーの実践 8 授業の意図と概要 9 ドラムサークル 1 音あそび (アイスブレイク) 10 ドラムサークル 2 11 ドラムサークル 3 12 ドラムサークル 4 13 グループ音楽活動の意義 14 ドラムサークル 5 15 ドラムサークル 6 16 総括 		

キーワード/Key word	コミュニケーション 音楽 身体 スポーツ
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>参考文献</p> <p>『音楽療法士のしごと』 生野 里花 (著) 単行本: 255ページ 出版社: 春秋社 (1998/01)</p> <p>『音楽文化のすすめ いま、ここにある音楽を理解するために』 小西 潤子 (編集), 志村 哲 (編集), 仲 万美子 (編集) 単行本: 264ページ 出版社: ナカニシヤ出版 (2007/03)</p> <p>『スポーツコミュニケーション』 東海林祐子 (著) 単行本: 187ページ 出版社: ブックハウス・エイチディ (2011/06)</p> <p>『身ぶりとしぐさの人類学』(中公新書) 野村雅一 (著) 単行本: 225ページ 中央公論社 (2002/05)</p>
成績評価の方法・基準等/Evaluation	レポートなどの提出物 70パーセント 講義時のワークシート 30パーセント

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 5
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587044901	科目番号 / Subject code	05870449
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	コミュニケーション基礎講座 (人間関係の社会学)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	中島 ゆり		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	中島 ゆり		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	中島 ゆり, 川越 明日香		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会、教育、経済、薬、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nakajimayuri@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部新館2階 (254-2)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2908		
担当教員オフィスアワー/Office hours	木曜日12:30 ~ 15:00 (その他の日時はemailにてアポイントをとること。)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>私たちは生まれてから死ぬまで、直接的にせよ、間接的にせよ、必ず誰かとの関係の中で生きている。「誰か」には、親、親戚、友人、恋人・パートナー、そして、全くの赤の他人も含まれる。これらの人間関係は、実は、文化、社会階層、ジェンダーによって異なるように形作られて可能性があるが、普段、私たちはそれに気づくことは少なく、さも当たり前のように自らの人間関係が他人のそれと同じだと思い込み、他者と比較し、場合によっては他者を羨んだり、逆に非難したりする。</p> <p>この授業では、人間関係にまつわる専門的知識を身に付けると同時に、その「眼鏡」を用いて自らの経験を振り返り、分析する練習をすることで、今後の人間関係の構築に役立つであろう「ものの見方」を身に付ける。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>(カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係が人に及ぼす影響について社会学の用語を用いて説明することができる(、、、) ・自分が経験してきた人間関係の影響について、客観的に分析することができる(、、、) ・他者との考え方の違いが生まれる背景や要因について推察することができる(、、、) ・人間関係に関する諸問題について自分の考えを述べる(、、、) ・他者の多様な価値観について受容的に関わることができる(、、、) 		
授業方法 (学習指導法) /Method	<p>第2回から第11回までは2回を1セットとし5つのテーマをとりあげる。各セットの1回目は専門的知識を学んで、それをもとに自分の経験を振り返り、2回目はその自分の経験の分析をグループで共有し、ディスカッションを行う。そして、そのディスカッションをもとに、再度、自分の経験を振り返る。</p> <p>第12~15回はこれらのディスカッションを深め、グループでプレゼンテーションを行う。最後に授業全体を振り返り、レポートを提出する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>第1回は、本科目で扱う内容や学習方法、評価の仕方などについて説明します。本科目の課題で求められるレポートの書き方についても説明しますので、必ず出席してください。</p> <p>第2回~第11回は、人が子どもから大人へと成長するまでに経験する様々な人間関係について、社会学の考え方に基づいた形で学びを深めていきます。</p> <p>第12~15回では学んできた内容について振り返り、プレゼンテーションをします。</p>		
キーワード/Key word	社会化、ジェンダー、学校文化、階層、再生産、家族、キャリア形成		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>指定の教科書はありません。授業時に用いる教材は随時配布します。</p> <p>また、主な参考書は以下の通りです。</p> <p>ピエール・ブルデュー1991 『再生産』藤原書店 アンソニー・ギデンズ1995 『親密性の変容 近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エロティシズム』而立書房 アーヴィング・ゴッフマン1980 『集まりの構造 新しい日常行動論を求めて』誠信書房 石黒格、李永俊、杉浦裕晃、山口恵子2012 『「東京」に出る若者たち 仕事・社会関係・地域間格差』ミネルヴァ書房 ナン・リン2008 『ソーシャル・キャピタル 社会構造と行為の理論』ミネルヴァ書房 恒吉僚子1992 『人間形成の日米比較 かくれたカリキュラム』中央公論社 (中公新書1065) 上野千鶴子1994 『近代家族の成立と終焉』岩波書店 ポール・ウィリス1996 『ハマータウンの野郎ども』筑摩書店 (ちくま学芸文庫)</p>		

成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>授業への参加と活動40% 授業外課題の提出30% 最終レポート30% (各課題・テストの配点及び評価方法については授業内で説明します) これらの総計を100点満点に換算し、60点以上を合格とします。</p>
受講要件(履修条件)/Requirements	<ul style="list-style-type: none"> ・資料はすべてLACSにアップしますので、事前にダウンロードしたりプリントアウトしたりして来てください。 ・授業中に課題を行ったりLACSを通して提出してもらったりしますので、PCを必ず持ってきてください。 ・授業中の私語は厳禁です。 ・事前・事後学習を必ず行ってください。 ・グループ・ディスカッションとグループ・プレゼンテーションには積極的に望んでください。
学生へのメッセージ/Message for students	<p>本科目では自分の経験や社会的な問題について客観的に捉えなおす視点を培い、考える力をつけていくことをねらいとしています。人間関係や社会的な問題についてじっくり考えてみたい人の受講を歓迎します。</p>

授業計画詳細

回(日時)/Time(date and time)	授業内容/Contents
第1回	オリエンテーション
第2回	社会化と親子関係(1)
第3回	社会化と親子関係(2)
第4回	友人関係・生徒文化(1)
第5回	友人関係・生徒文化(2)
第6回	知らない人とのかかわり(1)
第7回	知らない人とのかかわり(2)
第8回	家族・恋愛・セクシュアリティ(1)
第9回	家族・恋愛・セクシュアリティ(2)
第10回	人間関係とキャリア形成(1)
第11回	人間関係とキャリア形成(2)
第12回	グループ・プレゼンテーション(1)
第13回	グループ・プレゼンテーション(2)
第14回	グループ・プレゼンテーション(3)
第15回	グループ・プレゼンテーション(4)
第16回	